



山形県のシンボルを次世代へ ～県民の宝である「樹氷」の復活に向けて～

蔵王連峰に多く自生する針葉樹であり、樹氷を形づくるオオシラビソ（アオモリトドマツ）。そのオオシラビソが、虫による食害などにより、広範囲で枯死しました。林野庁によると、山形県側では約2万3千本（全本数の約2割弱）のオオシラビソが枯れており、樹氷の存続が危ぶまれています。

特に被害の甚大な山頂付近では枯死木が広がり、このままでは自然による再生は難しい状況です。



山形県では「樹氷復活県民会議」を設立し、オオシラビソの再生支援に取り組んでいます。

「樹氷復活県民会議」では、林野庁山形森林管理署と連携し、自然環境に配慮しながら、苗木の育成や稚樹を現地に移植し、育成していく活動を行っています。



「樹氷復活県民会議」

